

国  
語注  
意

1. 監督者の合図があるまでは問題冊子と解答用紙を開かないでください。
2. 別紙の解答用紙は、マークシート解答用紙と記述解答用紙とに分かれています。指定された解答欄をまちがえないように注意してください。マークシート解答欄は余りがでることがあります。
3. マークシート解答用紙は直接コンピューターにかけますので、折りまげたり、よごしたりしないでください。また枠で囲まれた部分以外には記入しないでください。
4. マークシート解答用紙にマークするときは該当する○にはつきりとマークしてください。マークのしかた (良い例) ● (悪い例) ⊙ ⊗ ⊖ ⊕
5. (万年筆、ボールペンなどは使用してはいけません) マークシート解答用紙に誤ってマークした場合には、消しゴムで跡が残らないようにしていねいに消し、消しかすをきれいに払ってください。
6. 試験開始後、マークシート解答用紙には氏名、受験番号を記入し、さらにその番号をマークしてください。なお、受験番号を記入するときにはマークシート解答用紙の〔受験番号記入上の注意〕をよく読んで、まちがいのないようにしてください。
7. 記述解答用紙には、氏名、受験番号を記入してください。
8. 試験問題は問題冊子の1～10ページに記載されています。
9. 問題冊子の余白部分は、メモとして利用して構いません。
10. 情報数理学科に出席している方は、設問Ⅰと設問Ⅱ(A・B)を解答してください。設問Ⅲを解答する必要はなく、解答しても得点にはなりません。
11. 試験終了後、この問題冊子は持ち帰ってください。

I 次の文章は、戦争が「過程」であるのに対して平和は「状態」であるとし、戦争と平和は対称的概念ではないと説明した後続くものである。これを読んで、後の問に答えよ。

戦争が「過程」であるのに対して平和は無際限に続く有為転変の「状態」である。だから、非常にわかりにくく、目にみえにくく、心に訴える力が弱い。

戦争が大幅にエントロピーの増大を許すのに対して、平和は絶えずエネルギーを費やして負のエントロピー（ネゲントロピー）を注入して秩序を立て直しつづけなければならない。一般にエントロピーの 1A 状態、たとえば生体の秩序性はそのようにして維持されるのである。エントロピーの増大は死に至る過程である。秩序を維持するほうが格段に難しいのは、部屋を散らかすのと片づけるのとの違いである。戦争では散らかす「過程」が優勢である。戦争は男性の中の散らかす「子ども性」が水を得た魚のようになる。

ここで、エントロピーの 1B 状態を「秩序」と言ったが、硬直的な格子のような秩序ではない。それなら全体主義国家で、これはしなやかでゆらぎのある秩序（生命がその代表である）よりも実はエントロピー（無秩序性）が 1C はずである。快適さをめざして整えられた部屋と強迫的に整理された部屋の違いというか。全体主義的な秩序は、硬直的であって、自己維持性が弱く、しばしばそれ自身が戦争準備状態である。さもなくば裏にほしのままの腐敗が生まれている。

負のエントロピーを生み出すためには高いエントロピー（無秩序）をどこかに排出しなければならない。部屋の整理でいえば、片づけられたものの始末であり、現在の問題でいえば整然とした都市とその大量の廃棄物との関係である。かつての帝国主義の植民地、社会主義国の収容所列島、スラム、多くの差別などだが、そのしわよせの場だったかもしれない。それでも足りなければ、戦争がかつこうの排泄場となる。マキャベリは「国家には時々排泄しなければならないものが溜まる」といった。しばしば国家は内部の葛藤や矛盾や対立の排泄のために戦争を行ってきた。

これに対して平和維持の努力は何よりもまず、

2

を維持しつづける努力である。しかし、この「免震構造」の構築と維

持のために刻々要する膨大なエネルギーは一般の目に映らない。平和が珠玉のごとくみえるのは戦時中および終戦後しばらくであり、平和が続くにつれて「すべて世はこともなし」「面白いことないなあ」と当然視され「平和ボケ」と蔑視される。

すなわち、平和が続くにつれて家庭も社会も世間も国家も、全体の様相は複雑化、不明瞭化し、見渡しが利かなくなる。平和の時代は戦争に比べて大事件に乏しい。人生に個人の生命を越えた(3)意義づけをせず、「生き甲斐」を与えない。これが「退屈」感を生む。平和は「状態」であるから起承転結がないようにみえる。平和は、人に社会の中に埋没した平凡な一生を送らせる。人を引きつけるナラティブ(物語)にならない。「戦記」は多いが「平和物語」はない。世界に稀な長期の平和である江戸時代二五〇年に「崇高な犠牲的行為」の出番は乏しく、一七〇二年に赤穂浪士の起こした事件が繰り返し語り継がれていた。後は佐倉惣五郎、八百屋お七か。現在でも小康状態の時は犯罪記事が一面を飾る。

平和運動においても語り継がれる大部分は実は「戦争体験」である。これは陰画としての平和である。体験者を越えて語り継ぐことのできる戦争体験もあるが、語り継がないものもある。戦争体験は繰り返し語られるうちに陳腐化を避けようとして一方では「忠臣蔵」の美学に近づき、一方ではダンテの『神曲・地獄篇』の酸鼻に近づく。戦争を知らない人が耳を傾けるためには単純化と極端化と物語化は避けがたい。そして真剣な平和希求は、すでに西ドイツの若者の冷戦下のスローガンのように、消極的な<sup>4</sup>Ohne mich(自分抜きでやってくれ)にとつて変わってゆきがちである。「反戦」はただちに平和の構築にならない。

さらに、平和においては、戦争とは逆に、多くの問題が棚卸しされ、あげつらわれる。戦争においては隠蔽されるか大目に見られる多くの不正が明るみになる。実情に反して、社会の墮落は戦時ではなく平和時のほうが意識される。社会の要求水準が高くなる。そこに人性としての疑いとやつかみが交じる。<sup>5</sup>

人間は現在の傾向がいつまでも続くような「外挿法思考」に慣れているので、未来は今よりも冴えないものにみえ、暗くさえ感じられ、社会全体が慢性の欲求不満状態に陥りやすい。社会の統一性は、平和な時代には見失われがちであり、空疎な言説のうちに消えがちである。経済循環の結果として、周期的に失業と不況とにおびえるようになる。被害感は強くなり、自分だけが疎外されているような感覚が生まれ、責任者を見つけようとする動きが煽られる。

平時の指導層は責任のみ重く、疎外され、戦時の隠れた不正に比べれば些細な非をあげつらわれる。指導者と民衆との同一視は普通行なわれず、指導者は嘲笑の的にされがちで、社会の集団的結合力が乏しくなる。指導者の平和維持の努力が評価されるのは半世紀から一世紀後である。すなわち、棺を覆うてなお定まらない。浅薄な眼には若者に限らず戦争はカッコよく平和はダサイと見えるようになる。

時とともに若い時にも戦争の過酷さを経験していない人が指導層を占めるようになる。長期的には指導層の戦争への心理的抵抗が低下する。その彼らは戦争を発動する権限だけは手にしているが、戦争とはどういうものか、そうして、どのようにして終結させるか、その得失は何であるかは考える能力も経験もなく、この欠落を自覚さえしなくなる。

戦争に対する民衆の心理的バリエーションもまた低下する。国家社会の永続と安全に関係しない末梢的な摩擦に際しても  
6。たとえば国境線についての些細な対立がいかに重大な不正、侮辱、軽視とされ、「ばかにするな」「なめるな」の大合唱となってきたことか。歴史上その例に事欠かない。

そして、ある日、人は戦争に直面する。

第一次大戦開始の際のドイツ宰相ベートマン＝ホルヴェークは前任者に「どうしてこういうことになったんだ」と問われて「それがわかったらねえ」と嘆息したという。太平洋戦争の開戦直前、指導層は「ジリ貧よりもドカ貧を選ぶ」といって、そのとおりになった。必要十分の根拠を以て開戦することは、一九三九年、ソ連に事実上の併合を迫られたフィンランドの他、なかなか思いつかない。

(中井久夫『戦争と平和 ある観察』より)

問一 空欄 1 A、1 B、1 Cに入る語の組み合わせとしてもっとも適切なものを次から選び、その数字をマークせよ(解答欄はマークシート a)。

- |   |     |    |     |    |     |    |
|---|-----|----|-----|----|-----|----|
| ① | 1 A | 高い | 1 B | 高い | 1 C | 低い |
| ② | 1 A | 高い | 1 B | 高い | 1 C | 高い |
| ③ | 1 A | 低い | 1 B | 高い | 1 C | 低い |
| ④ | 1 A | 低い | 1 B | 低い | 1 C | 高い |
| ⑤ | 1 A | 低い | 1 B | 低い | 1 C | 低い |

問二 空欄 2に入るもっとも適切なものを次から選び、その数字をマークせよ(解答欄はマークシート b)。

- ① しなやかでゆらぎのある秩序
- ② 硬直的な格子のような秩序
- ③ 排泄を行なうための秩序
- ④ エントロピーを増大するエネルギー
- ⑤ 秩序を保つエントロピー

問三 空欄 3に入るもっとも適切な語を次から選び、その数字をマークせよ(解答欄はマークシート c)。

- ① 本来の
- ② ありきたりな
- ③ 狭義の
- ④ 戦争の
- ⑤ みせかけの

問四 傍線部4『反戦』はただちに平和の構築にならない」理由としてもっとも適切なものを次から選び、その数字をマークせよ  
(解答欄はマークシート d)。

- ① 平和運動には、勇敢で忠臣的な行動を賛美する側面もあるから。
- ② 平和運動は、その思想とは逆に、恐怖を与えてしまうこともあるから。
- ③ 反戦は戦争体験者を通じて示されなければならないが、戦争体験者の数は年々減ってきているから。
- ④ 単純化された戦争体験の物語は聞き入れられやすいが、真剣な平和希求は積極的な賛同を得にくいから。
- ⑤ 戦争に反対する反戦と、平和な状態を維持しようとする平和希求は、本来の目的が異なるから。

問五 傍線部5「人性としての疑いとやっかみが交じる」とあるが、筆者はその結果、どのようなことが起こると述べているか。  
記述解答用紙I5の解答欄に即して三十字以上四十字以内で説明せよ(句読点も一字と数える)。

問六 空欄6に入るもっとも適切なものを次から選び、その数字をマークせよ(解答欄はマークシート e)。

- ① 指導層の責任を追究するようになる
- ② 楽観的に考えるようになる
- ③ 容易に煽動せんどうされるようになる
- ④ 慎重に議論するようになる
- ⑤ 平和を損そじなうものと考えようになる

問七

本文での筆者の主張に合致しないものを次からひとつ選び、その数字をマークせよ（解答欄はマークシート）。

- ① 全体主義国家にみられる秩序と、平和の状態を維持するための秩序は別物である。
- ② 平和維持が難しい理由のひとつは、平和には人を引きつける物語がないからである。
- ③ 時が経つにつれて、指導層だけでなく民衆も戦争に対する警戒心が薄れていく。
- ④ 平時の指導層の不祥事は大きな問題ではなく、責任だけを負わせるのは不公平である。
- ⑤ 戦争を知らない人が指導層を占めるようになると、戦争が起こりやすくなる。

II A 次の1～3の( )内のカタカナを漢字に直し、4～6の( )内の漢字の読みをひらがなで記せ(解答欄は記述解答用紙II1～6)。

- 1 (レンポウ)議会で多数派を占める。
- 2 (コウキユウ)的な平和を求める。
- 3 (セイセイ)塩は自然塩と異なり、電気分解によって作られる。
- 4 新会社の(発起)人として署名をする。
- 5 長年の(不摂生)が病を招いた。
- 6 過去の決定に(悔恨)の念を抱く。

II B 次の7～10の( )内のカタカナと同じ漢字が当てはまるものを①～⑤からひとつ選び、その数字をマークせよ(解答欄はマークシートg～j)。

- 7 (カイ)厳令がしかれた。  
① 問題「カイ」決      ② 臨「カイ」点      ③ 生徒「カイ」      ④ 巡「カイ」展      ⑤ 自「カイ」
- 8 ルールは(ジユウ)軟に運用されることもある。  
① 主「ジユウ」      ② 懐「ジユウ」する      ③ 「ジユウ」字軍  
④ 「ジユウ」口を向ける      ⑤ 「ジユウ」横無尽
- 9 一晩寝かせた原稿をさらに(スイ)敲コウする。  
① 「スイ」直      ② 「スイ」納      ③ 汚「スイ」      ④ 完「スイ」      ⑤ 「スイ」薦
- 10 採決に異(ギ)を申し立てる。  
① 「ギ」人法      ② 「ギ」問      ③ 不患「ギ」      ④ レントゲン「ギ」師      ⑤ 「ギ」造品

### III

次の文章は、紀朝臣貫之が土佐守として五年の任期を終え、船で都へと向かう途中、船長にここはもう和泉国だと言われて船中の皆が安堵した後の場面である。これを読み、後の間に答えよ。

ここに釣ぶねかとおぼしき、木葉のやうなるが散り来て、我が船に漕ぎよせ、苦上げて出づる男、声をかけ、「前の土佐守殿のみ舟に、たいめたまはるべき事ありとて、追ひ来たる」と、声あららかに云ふ。「何事ぞ」といへば、「国を出でさせしよりおひくれど、風波の荒きにえおはずして、今日なんたいめたまはるべし」と云ふ。「すは、さればこそ海賊の追ひ来たるよ」とて、さわぎたつ。つらゆき舟屋かたの上に出でたまひて、「なぞ、此の男、我に物いはんと云ふや」とのたまへば、「是はいたづら事也。しかれども、波の上へだてては、声を風がとりてかひなし。ゆるさせよ」とて、翅ある如くに吾がふねに飛び乗る。見れば、いとむさむさしき男の、腰に広刃のつるぎおびて、恐しげなる眼つきしたり。朝臣、けしきよくて、「八重の汐路をしのぎて、ここまで来たるは何事」と、とはせたまへば、帯びたるつるぎ取り棄てて、おのが舟に投げ入れたり。

さて申すは、「3 也とて、仇すべき事おほししらせたまはねば、打ちゆるびて、物答へて聞かせよ。君が国に、五歳のあひだ、参らんとおもひしかど、筑紫九国、山陽道の国の守等が怠りを見聞きて、其のをちこちしあるきて、けふに成りたる也。海賊は心をさなき者にて、君が国能く守らすのみならず、あさましく貧しき山国にて、あぶるるにたよらなければ、余所にして怠りたるにぞ。都の御たちへ参るべけれど、ことごとしく、且つ、人に見知られたれば、4、とにかくに紛れある

くなり。さて問ひまゐらすは、延喜五年に勅を奉りて、国ぶりの歌撰びて奉りし中に、君こそ長君たれと聞く。統万葉集の題号は、昔の誰があつめしともしらぬに次がれしなるべし。是はよし。題の心をきけば、万は多数の義とは、是もよし。葉は、後漢の劉熙が積名に、『歌は柯也』。いふ意は、『人の声あるや、草木の柯葉有るが如し』とぞ。6。人の声には、喜怒哀

楽につきて、聞くによるこぶべく、悲しむべきがあり。故に声に長短緩急有りて、うたふにしらべとのはぬがあり。草木の枝葉の風に音するも、はやちならば、誰かはあはれと聞くべき。」

注一 たいめ 対面。

注二 筑紫 九州全体の称。

注三 延喜五年 醍醐帝の代、九〇五年。

注四 劉熙 訓詁学を体系化した人物。

注五 積名 音に従って事物の意義を説明した字学書。

注六 はやち 疾風に同じ。

問一 傍線部1「吾がふねに飛び乗る」の理由としてもっとも適切なものを次から選び、その数字をマークせよ(解答欄はマークシート)。

① 声が聞こえにくいため

② 波の揺れで戯れるため

③ 船が沈みそうのため

④ 軽やかに飛ぶ姿を見せるため

⑤ 取り逃がさないようにするため

問二 傍線部2「帯びたるつるぎ取り棄てて、おのが舟に抛なげ入れたり」の理由を記述解答用紙Ⅲ2の指定に即して十字以上十五字以内で答えよ(句読点も一字と数える)。

問三 空欄3に当てはまる語句としてもっとも適切なものを次から選び、その数字をマークせよ(解答欄はマークシート)。

① 釣ぶね

② 土佐守殿

③ 海賊

④ 朝臣

⑤ いたづら事

問四 空欄4に当てはまる語句としてもっとも適切なものを次から選び、その数字をマークせよ(解答欄はマークシート)。

① 道狭くて

② 世狭くて

③ 心狭くて

④ 船狭くて

⑤ 海狭くて

問五 傍線部5「君こそ長君たれと聞く」の文中の意味としてもっとも適切なものを次から選び、その数字をマークせよ(解答欄はマークシート  )。

- ① 人々は、貴殿が撰者の中の長であったかと聞く
- ② 人々は、貴殿は撰者の中の長になりたかつたかと聞く
- ③ 貴殿に、撰者の中の長を誰にしたかつたかと聞く
- ④ 貴殿は撰者の中の長であったと聞く
- ⑤ 貴殿が撰者の中の長であるべきだと聞く

問六 空欄6に当てはまる語句としてもっとも適切なものを次から選び、その数字をマークせよ(解答欄はマークシート  )。

- ① 是はいかにぞや
- ② 是はいにしえのことなり
- ③ 是はいとほし
- ④ 是はゆるすべし
- ⑤ 是は誰ならん